

多職種協働による在宅チーム医療を担う 人材育成研修ニュース No. 5

西区役所高齢・障害支援課

電話：320-8410

令和2年3月発行

地域包括ケアシステムの推進に向けて、西区在宅医療相談室と連携し「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修」を開催しました。今回は“もしバナゲーム（余命わずかの想定で自らの価値観を考え話し合うゲーム）”を通じて多様な価値観の存在を知り、本人の生き方を尊重するための支援者としての関わりについて考えました。

「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修」

日時：令和2年2月19日（水）19時～21時

場所：西区役所会議室

メンバー：医師・歯科医師・薬剤師・看護師・MSW・ケアマネジャー・介護サービス事業者
地域包括支援センター職員 ほか

参加人数：44名

講師：三ツ沢ハイタウンクリニック 医師 増田 英明 様

戸塚区在宅医療相談室 管理者 緩和ケア認定看護師 大島 美代子 様

在宅における意思決定支援

三ツ沢ハイタウンクリニックの増田先生より、厚生労働省が作成した「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を解説していただきました。人生の最終段階における医療ケアのあり方としては、本人による意思決定を基本とした上で医療チームと本人の話し合いが繰り返し行われることが重要であるということ、また、本人が意思を伝えられない状態になる可能性があることを考え、本人は特定の家族等を自分の意思を推定する者として前もって定めておくことも重要であるということをお話いただきました。このガイドラインには、人生の最終段階を迎えた本人・家族等に対して、医師をはじめとする医療・介護従事者が担う役割や、意思決定支援の考え方について記載されています。皆様もぜひご一読ください。

～意思決定支援のポイント～

- ・適切な情報提供がされている
- ・チームと十分な話し合いがされている
- ・意思の変化に対応できる仕組みがある
- ・疼痛や不快な症状を十分緩和されること
- ・代理の決定者を決める
- ・第三者を交える場がある



“もしバナゲーム”を体験してみよう！！



～ACP（アドバンス・ケア・プランニング）って？～
自らが望む人生の最終段階における医療ケアについて、
前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い
共有する取組のことです。通称：「人生会議」



全36枚



IACP

“もしバナゲーム”・・・

◆治療困難な病気で ◆生命の危機が迫っている時 ◆あと半年から1年の命と言われたら
あなたは何を大切にしたいですか？

ゲームは戸塚区在宅医療相談室 大島看護師が進行。

ACPに関わる支援者の姿勢について、「自分の価値観を知り、多様な価値観の存在を知ること、はじめて真にその人の価値観を受け止めることができるのでは」

「自己を知り、揺らぎ、多様性を感じることで、
考え方の引き出しを多く持つことができるようになる。

その引き出しの数は、曖昧さを受け入れる力となる」という解説をしてくださいました。



アンケート結果

“意思決定支援の講義”

59%の方が「とても参考になった」
41%の方が「参考になった」と回答。

“もしバナゲーム体験”

75%の方が「とても参考になった」
25%の方が「参考になった」と回答。

～参加者の方の声～

- ・気持ちが揺れることは当たり前であり、
本人、家族の話し合いを重ねていくことが大切だと分かった。
- ・他者の意見を認める、傾聴する大切さを再認識できた。
- ・自分の考えていることを認識できた。
他人と違うことは当たり前だが、受け入れることの大切さや
話し合うきっかけにもなると勉強になった。
- ・一つ一つのカードの言葉に考えさせられる内容だった。
いい人生だったと最後に思えるように支援していきたい。

西区在宅療養ガイド

最期まで自分らしく住み慣れた地域で過ごすため、
在宅療養を考えていただく材料としてお役立てください。

パート1

元気なうちから考えておくことや
知っていてほしいことをまとめています。

パート2

地域で過ごす際に活用できる、
医療・介護サービスや地域の活動、
お役立ちアイテムを紹介しています。



もしも手帳

「人生の最終段階」での医療やケアに
ついて、自分の考えを残しておくため、
元気なうちから考えるきっかけとする
ための手帳です。

